

民主化闘争情報

No. 893
2013年10月30日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR連合・JR北労組の情報によれば、10月26日(土)、UHB北海道文化放送で、JR北海道における一連の事故・不祥事に関する特集番組が放映された。その中で、閉鎖的とされるJR総連・北鉄労の体制を象徴するかのよう、北鉄労組合員の悲痛な叫びが紹介された。

また、週刊ダイヤモンド最新号(10月26日号)では、一連のトラブルの背景には、道労組(北鉄労)の責任は排除できないと厳しく指摘している。

良識ある北鉄労組合員の悲痛の叫び！ 「反発や組合方針と違う意見を言えば 徹底的に攻撃」！

放送では、「『冠婚葬祭出るな！』事故の背景に労組問題！？」として、労組関係に着目した内容が取り上げられ、その中で工務系統の現役社員からの悲痛な叫びが次のように紹介された。

「私は一番多数派の労働組合に所属しています。正直、異常な組織だと入社時から感じていました。政治問題が一番で、労働条件の改善は二の次です。反発や、組合の方針と違う意見を言えば、徹底的に職場に訪ねてきたりと攻撃されます。だから、皆やりたくなくても活動に参加している人が大半です」

JR北海道の底知れぬ病巣 道労組(総連系)の責任は排除できない！

週刊ダイヤモンド最新号(10月26日号)では「JR北海道の底知れぬ病巣」と題して、一連のトラブルの背景には、組合のサボタージュの側面は否めないとした上で、道労組(北鉄労)の責任は排除できないとしている。

不祥事続きのJR北の病巣として指摘されているのが労働組合問題だ。ある鉄道関係者は、「組合のサボタージュの側面は否めないし、最大労組である道労組(総連系)の責任を排除することはできないだろう」と指摘する。

JR北の幹部は「彼らのやる気のなさはひどい。いかに働かないかということばかり腐心している」と口をそろえる。(週刊ダイヤモンド10月26日号)

北鉄労は「平和共存否定」運動の旗を降ろすべきだ！
安全の確立に向けて、風通しの良い職場風土を！